

花南 みずみ風

花巻南高PTA会報
140号
発行：若手県立花巻南高等学校PTA
発行日：令和3年12月23日
印刷：青金ケ輪印刷



特集

**110周年記念事業
【体育祭・花南祭】**



一一〇周年記念事業

講演会生徒感想文

一年一組 川村 莉央

今回の講演会で一番印象に残ったことは、「根拠のない自信を持つ」という言葉です。何事もやる前に諦めてしまうのではなく、根拠のない自信を持って自己肯定感を上げることでモチベーションにも繋がることを知りました。今回の講演のタイトルにもあるように、やってみないと分からないし、やらないと成し遂げられないと改めて考えさせられました。また「ワクワクする目標を立てる」というポイントでも、周りの人に押しつけられるものをしていても、自分はワクワクしないし続けられないので、自分のしたいこと、やってみたいことを大切にして目標を



立てたいと思いました。実際に客のよ

うな経験をしたことがあるので、より大切なことであることを再確認しました。また、講師の方がおっしゃっていた「周りは結果しか見ていない」という言葉に考えさせられました。良くても悪くても自分の周りの人は結果ですべてを判断し、それまでの過程はそこまで見ていないので、その分表に出さなくても必死に努力して周りの人を黙らせるような結果を出せばいいという考え方がすごく好きでした。私も約半年後には受験生の年となるので、講師の方の考え方で勉強を頑張っていきたいと思えました。

今回の講演会で感じたことは、ポジティブ思考で考えることが大切だということ。周りや環境が悪くてもそれをポジティブな考え方に変えていければ、自分の頑張る糧となるし、自分のモチベーションを保つこともできます。また目標を可視化すること、憎しみをプラスの力に変えることなど様々な方法を知ることができました。今回学んだことを自分なりに活かして、今後の生活、勉強に対する考えがよりよくなるようにしていきたいと思えました。

一年一組 相馬 朋佳

私が今回の講演会で印象に残った言葉は「進路をワクワクするものにする」というものです。正直、最近では自分が選んだ進路にワクワクなんて感じていませんでした。小林さんが「公務員を、安定を求めて選ぶのはダメ。公務員も十数年存在しているか分からない」ということを言っていて、私は公務員を目指していたので、少しドキッとしました。その時、自分はどんな理由で公務員を目指し始めたのかを思い出しました。目指し始めた中学生の頃は「花巻を変えたい」という気持ちでいたのに、最近は何となく安定しているし、という気持ちが強くなっていました。今日の小林さんの言葉で当時の気持ち思い出せましたし、勉強へのモチベーションを高めるために、この気持ちを常に忘れないようにしたいと思います。

また周りの大人に「自分のために勉強するんだ」といつも言われていたが、自分の中であまりピンときていなかったのですが、小林さんの「他人のために勉強する」という言葉で納得できました。自分のためだと思ったりやる気が起きないけど、他人のためだと思ったりやる気が湧いてきます。これからは他人のためと思って、努力したいと思えます。

今日の講演会の前に映画のピリギヤルを観ていたので、実際のお話と比べられておもしろかったです。映画では描かれていなかったところなど聞いて凄いな人生だなと思いました。



一年二組 和田 美優

ピリギヤルの映画を講演会の前日に見て、映画用に話を盛って作っていると思っていたけれど、さやか先生の話聞いて、実際にあった話なんだと驚いた。坪田先生の、さやかさんや他の生徒をやる気にさせる方法や教え方がとても適切ですごくいいと思った。さやかさんは高校2年生の時、小学4年生レベルの学力しかなかったのに、たった一年半で偏差値を40も上げることができたのは、強い気持ちや毎日の努力、お母さんや坪田先生の支えのおかげなんだと感動した。

私はまだはつきりとした進路が決まっていなくて悩んでいるが、今回の講演会で「自分がワクワクする道を選ぶ」「どんな小さな理由でもいい」ということを学んで、なるほどと思った。また勉強方法として、自分の分からないところにいきなり取り組むのではなく、6割〜7割程分かるところから取り組むというのを実践してみたい。そ



二年三組 鎌田 愛

うすることで勉強が続くと思う。周りの人に自分の目標を言つて、自分を追いつめることが効果的ということも学んだ。さやかさんが友達や家族などたくさんの人に「さやかは慶應に行く！」と目標を言ったり、紙に書いたりしていたのを自分もやってみたくて思った。慶應義塾大学に合格したのもとてもすごいし格好いいと思ったが、合格した後も様々な目標を持って、チャレンジし続けているのが、きらきらしていて格好いいと思った。

私がさやかさんから教わった五つの法則の中で、特に印象に残っていることは二つあります。一つ目は「ワクワクする目標をみつける」ということです。進路を決めるにあたって、志望校や就職先を一つに決めなければならな

い時が来ますが、ワクワクするものを基準に決めるのもいいと思いました。これは、勉強の時も当てはめることができると思いました。「この教科を終えたら好きな雑誌を見よう」など、ワクワクする目標を設定することで、最後まで集中して勉強できると思いました。二つ目は「ポジティブに変える力を持つ」ことです。例えばテストの残り時間があと10分しかない時に、「10分しかない」と捉えるのではなく、「あと10分もある」と捉えると、心に余裕が生まれ、問題の答えを導きやすくなるのではないかと思います。

またさやかさんの家族は、父親は弟の野球一筋であり、さやかさんの唯一の支えは母親でありましたが、私は家族全員に支えられ、充実した学校生活を送ることができ、素晴らしい先生方に出会うことができたりと、とても恵まれています。でもこのような日常が当たり前だと捉えるのではなく、日々支えてもらっている方々に感謝の気持ちを忘れずに生活していきたいです。そのためにも今回の講演会で学んだことを取り入れて、進路実現に向けて一歩ずつ努力していきたいです。

二年四組 菅原 萩奈

今日の講演を聞いて、可能性は無限大だなと思った。考え方から変えていくべきだと感じた。小林さやか先生みたいにこんなにポジティブに考えて目標に一線に走っていくことは難しいが、参考になる部分をいろいろと自分

なりに工夫して、将来に向けてや勉強・部活動などに活かしていきたい。また、不可能を可能に変える五つの法則も特に印象に残った。他から「あれにしかない、これになりなさい」など言われても長続きはしないと話していたことも自分も体験したことがあり、共感することがあった。五つの法則の二つ目、「根拠のない自信をもとう」は正直疑問に思っていた。けれど話を聞いていくうちに、根拠がないということは何が起こるか分からない、とにかくやってみるしかない、ということを知ることができた。五つの法則のうち、目標や夢を公言することを頑張ってみようと思う。目標や夢をいろいろな人言うことは、自分にとって勇気のあることで、公言することに抵抗はあるが挑戦しようと思った。

本日に小林さやか先生の講話を聞いて、考え方やとらえ方が180度変わる、とても良い機会となった。今、大人になってまでも何かに挑戦している姿が格好良く見えた。自分も進路に向けて頑張ろうと思えたり、様々なことに取り組んでみたい気持ちが芽生えた。目の前にある目標や夢に向かって突き進んで達成していきたいと思った。YouTubeをやっていると聞いたのでぜひ見てみたい。

二年五組 佐藤 楓香

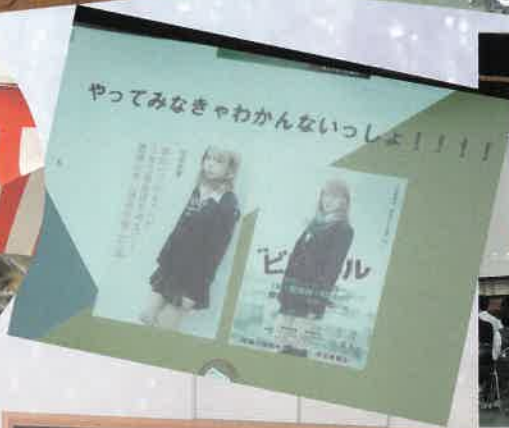
今回の記念講演会はとても貴重な経験となりました。今回の講演会で改めて、挑戦することがいかに大切かを知

ることができました。小林さやか先生が高校生だったときの行動力と、一度決めたことは誰に何と言われても変えないという心構えがすばらしいと思いました。私が勉強することに対して「こんなこと勉強して何になるんだろう」と思っているように、小林さやか先生も当時はそう思っていたと話していて、とても共感しました。私は進路のことを今はまだ、親に少し頼りながら決めているところがあるので、今回の講演で言っていたように、自分の人生一度きりだから、自分がワクワクするようなことを見つけて道を切り開いていきたいと思っています。私は最近、自分が誰かにしてあげていることが相手のためではなく、それをしている自分が好きなんじゃないかと感じていました。やはりこんなことを思っているのは、自分に酔いすぎだと思っていました。けれど今回の講演で自己肯定感をもつことは大切だと知って、安心しました。

私が一番心に残っていることは「勉強は自分のためじゃなく、誰かのためにする」ということです。今まで先生や親にも「将来の自分のために」と言われてきて、正直「またこう言われるのか」とうんざりして余計にやる気が出せないうままでいました。けれど、誰かのためになることなら私は頑張れると思いました。これから生活していく中で私はどんなことにワクワクするかを見つけ、少しずつ自分の人生を決めていきたいです。

110周年

記念式典・記念講演会





体育祭

6月23・24日の2日間、体育祭が行われました。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、ドッジボールやバスケットボールなどの競技は実施できませんでした。その代わりに新競技のモルックや輪投げなどが追加され、生徒会や体育祭実行委員を中心に工夫を凝らして実施しました。生徒の皆さんはそれぞれ得意な競技に出場し切磋琢磨したり、楽しみながらクラスの団結を高めていました。全学年がルールを守り、思い出の残る体育祭にすることができたので良かったです。

体育祭実行委員長 3-4佐藤 菜々美





花南祭



今年度の花南祭は、岩手県で緊急事態宣言が発令され花巻市文化会館も休館になったため、学校での開催となりました。また県内での感染者が増加、クラスターも発生している状況でしたので、有志発表も急遽中止せざるを得ませんでした。体育館の密を避けるため鑑賞を2回に分け(1回目は3年生と2年1・2組、2回目は2年3・5組と1年生)、パイプ椅子も間隔を空けて準備しました。また換気や消毒など、生徒の皆さんにはたくさんの協力をしていただきました。

演劇部・ダンス同好会・英語部・スポーツ健康科学学系2年4組・応援委員会・日本音楽部・吹奏楽部の発表でしたが、どの団体も日頃の練習の成果を体育館のステージという限られたスペースの中で、一杯発表してくれました。手拍子などでとても盛り上がり、例年とは違う楽しさがありました。花南祭実行委員会の皆さんや演劇部の皆さんの大きな協力があり、最高のステージだったと思います。

今年度の花南祭での改善点を来年度へ繋げ、より良いものに作り上げていくよう、最善を尽くして行きたいと考えています。これからも皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

生徒会執行委員長 2-2 吉田 萌々子





部活動報告

運動部

〔硬式野球部〕

〔春季高校野球花巻地区予選〕

- 1 回戦 5-4 花巻北
- 代表決定戦 10-1 遠野(7回コールド)
- 決勝 0-7 花巻東(7回コールド)

〔春季高校野球県大会〕

- 1 回戦 4-0 岩手
- 2 回戦 7-2 大船渡東
- 準々決勝 10-2 宮古商工(7回コールド)
- 準決勝 6-4 盛岡大付属
- 3 位決定戦 4-7 久慈

〔第103回全国高等学校野球選手権岩手大会〕

- 1 回戦 11-0 盛岡北(5回コールド)
- 2 回戦 0-7 花巻農業

〔第74回秋季東北地区高等学校野球選手権大会花巻地区予選〕

- 1 回戦 6-5 花巻北
- 2 回戦 4-3 花北青雲(延長13回TB)
- 決勝 0-11 花巻東(6回コールド)

〔第74回秋季東北地区高等学校野球選手権大会〕

- 1 回戦 2-0 福岡工
- 2 回戦 4-1 高田
- 準々決勝 6-5 千厩(延長10回)
- 準決勝 2-3 久慈東
- 3 位決定戦 3-8 盛岡大附

〔1年生交流野球大会花巻地区予選〕

- 1 回戦 7-0 遠野(7回コールド)
- 2 回戦 9-2 花巻北(7回コールド)
- 代表決定戦 1-4 花巻東

〔陸上競技部(男子)〕

〔高総体花巻地区予選〕

- 200m 5位 小島史優(2)
- 400m 2位 菊池陽太(3)
- 3位 佐々木 伶(2)

- 走幅跳 5位 佐々木広那(2)
- 4×100mR 2位 小原・佐々木・小島・菊池

- 4×400mR 2位 佐々木・菊池・小島・小原
- ※リレー候補選手を含め、県大会は9名の登録

〔県高総体〕

- 400m準決勝進出 菊池陽太(3)
- 4×100mR準決勝進出 小原・小島・高橋・佐々木
- 4×400mR準決勝進出 小原・小島・佐々木・佐々木

〔県選手権〕

- 400m(2部)
- 4×100mR 高橋・佐々木・小原・小島
- 4×400mR 8位 小原・小島・佐々木・菊池

〔県民体育大会〕

- 4×100mR 10位 小原・佐々木・高橋・小島
- 4×400mR 8位 小原・佐々木・高橋・佐々木

〔県新人戦〕

- 4×100mR 9位 小原・佐々木・高橋・小島
- 4×400mR 9位 小原・小島・佐々木・佐々木

〔陸上競技部(女子)〕

〔高総体花巻地区予選〕

- 100m 1位 藤原結衣(3)
- 6位 坂本芽依(2)
- 200m 1位 藤原結衣(3)
- 100mH 1位 菅原萩奈(2)
- 300m 5位 菊池優杏(2)
- やり投 6位 熊谷和花(2)
- 4×100mR 3位 東・藤原・坂本・菅原
- 4×400mR 2位 藤原・坂本・東・菅原

※リレー候補選手を含め、県大会は6名の登録

〔県高総体〕

- 100m準決勝進出 藤原結衣(3)
- 200m準決勝進出 藤原結衣(3)
- 4×100mR 準決勝進出 東・藤原・坂本・菅原

〔県選手権〕

- 4×100mR 戸川・坂本・東・菅原
- 4×400mR 坂本・東・菅原・畑山

〔県民体育大会〕

- 4×100mR 13位 坂本・藤原・東・戸川
- 4×400mR 10位 坂本・東・菅原・戸川

〔県新人戦〕

- 4×100mR 坂本・藤原・菅原・戸川
- 4×400mR 坂本・菅原・藤原・畑山

〔バスケット部(男子)〕

〔高総体〕

- 2 回戦 143-57 江南義塾
- 3 回戦 55-121 盛岡市立

〔バスケット部(女子)〕

〔高総体〕

- 2 回戦 91-50 盛岡中央
- 3 回戦 57-115 盛岡白百合

〔選抜大会〕

- 1 回戦 83-68 専大北上
- 2 回戦 48-117 一関修紅

〔ソフトボール部〕

〔県高総体〕

- 2 回戦 4-3 高田
- 準々決勝 2-7 一関一

〔県高等学校新人大会〕

- 2 回戦 7-0 久慈
- 準々決勝 1-0 盛岡中央
- 準決勝 0-7 花巻東

〔県高等学校新人選抜大会〕

- 予選トーナメント 7-2 盛岡農業
- 1位トーナメント準決勝 1-8 花巻東

〔バレーボール部〕

〔高総体〕

- ★21大会ぶり2回目の優勝
- 優秀選手 小野寺雅緒、佐藤菜々美、駒込薫子
- 2 回戦 2-0 水沢第一
- 3 回戦 2-0 一戸
- 準々決勝 2-1 高田
- 準決勝 2-1 一関修紅
- 決勝 2-0 盛岡誠桜

〔全国高校総体(石川県金沢市)〕

- 予選グループ戦敗退
- 0-2 東京都大塩尻高校(長野)
- 0-2 近江(滋賀)

〔東北総合体育大会(山形市)〕

- 少年女子選抜選手(小野寺雅緒、佐藤菜々美、駒込薫子、佐藤望愛、浦田美咲、佐々木響、小野寺心)
- グループ戦敗退
- 0-2 秋田県
- 0-2 山形県

〔全日本バレーボール高等学校選手権大会岩手県予選会〕

- 第3位
- 優秀選手 小野寺雅緒
- 1 回戦 2-0 岩手女子
- 2 回戦 2-0 花巻東
- 3 回戦 2-0 盛岡第三
- 準決勝 1-2 一関修紅

〔ソフトテニス部(男子)〕

〔ジュニア選抜ソフトテニス選手権大会〕

- ダブルス 高橋 大・浅沼胡羽 3 回戦進出
- 小杉柊人・鎌田輝音 3 回戦進出
- シングルス 工藤海翔・佐々木疏汰 2 回戦進出
- 齊藤温斗・池田龍希 2 回戦進出
- 畠山日々季・瀬川光希 初戦敗退
- 佐々木柊斗・高橋輝虎 初戦敗退

- シングルス 工藤海翔 2 回戦進出
- 浅沼胡羽 2 回戦進出
- 高橋 大 2 回戦進出
- 畠山日々季 2 回戦進出
- 鎌田輝音 2 回戦進出
- 齊藤温斗 初戦敗退

〔第73回岩手県高等学校総合体育大会〕

- 団体戦 3-0 一関高専
- 0-3 一関学院
- 個人戦 高橋 大・浅沼胡羽 3 回戦進出
- 工藤海翔・佐々木疏汰 3 回戦進出
- 小杉柊人・鎌田輝音 3 回戦進出
- 畠山日々季・瀬川光希 2 回戦進出
- 八重樫利玖・池田龍希 2 回戦進出
- 佐々木柊斗・高橋輝虎 初戦敗退
- 熊谷悠人・佐藤拓磨 初戦敗退

〔北奥羽ソフトテニス選手権〕

- 決勝トーナメント進出
- 佐々木柊斗・佐々木疏汰

〔宮古市ソフトテニス協会会長杯〕

個人戦 小杉裕人・鎌田輝音 ベスト8

〔ルーセント杯一関研修大会〕

個人戦 佐々木柊斗・佐々木琉汰 優勝

八重樫利玖・高橋裕太 第2位

島山日々季・池田龍希 第3位

〔高体連ソフトテニス夏季強化事業〕

個人戦 島山日々季・池田龍希 ベスト16

佐々木柊斗・佐々木琉汰 ベスト32

吉田遥人・瀬川光希 ベスト32

〔県下高校新人一関大会〕

個人戦 島山日々季・池田龍希 ベスト8

佐々木柊斗・佐々木琉汰 ベスト16

〔花巻地区高校新人大会〕

個人戦 島山日々季・鎌田輝音 優勝

佐々木柊斗・佐々木琉汰 2位

〔第66回右手県高等学校新人大会〕

団体戦 ベスト16

3-10 北上翔南

0-12 一関第一

個人戦 島山日々季・池田龍希 ベスト8

小杉裕人・鎌田輝音 ベスト32

佐々木柊斗・佐々木琉汰 ベスト32

吉田遥人・瀬川光希 ベスト32

八重樫利玖・高橋裕太 2回戦進出

熊谷悠斗・佐藤拓磨 初戦敗退

〔U17・20選手選考大会〕

シングルス 島山日々季 予選リーグ2位

池田龍希 予選リーグ3位

〔ソフトテニス部(女子)〕

ダブルス 菅原美亜・菅原楓実果 ベスト16

シングルス 菅原美亜 第3位

〔県高校総体〕

個人戦 菅原美亜・菅原楓実果 ベスト16

団体戦 ベスト8

2回戦 2-11 宮古商工

3回戦 2-11 水沢

準々決勝 1-12 高田

〔国体選手選考大会〕

ダブルス 菅原美亜・菅原楓実果

予選リーグ3位



シングルス 菅原美亜 第3位

〔県新人大会〕

個人戦 4組出場

団体戦 ベスト8

2回戦 2-11 盛岡商

3回戦 2-10 久慈東

準々決勝 0-12 一関学院

〔剣道部(男子)〕

団体戦 第3位

予選リーグ 5(10)-0(0) 久慈東

準々決勝 5(10)-0(2) 花巻東

決勝リーグ 4(7)-0(1) 盛岡第四

0(2)-2(5) 福岡

2(6)-1(4) 盛岡第一

※東北選手権の出場権を獲得(中止)

〔第64回右手県高等学校新人大会剣道競技〕

個人戦

武内俊樹 優勝

上田和将 第3位

2回戦 3(7)-1(4) 黒沢尻北

〔第34回東北高等学校選抜剣道優勝大会〕

準々決勝 3(5)-2(3) 盛岡第四

準決勝 2(4)-3(5) 福岡

〔剣道部(女子)〕

団体戦 第3位

予選リーグ 4(7)-1(3) 水沢

準々決勝 2(4)-1(3) 盛岡南

決勝リーグ 0(2)-4(7) 福岡

4(9)-1(3) 盛岡第三

0(3)-4(9) 白百合

※東北選手権の出場権を獲得(中止)

個人戦 川村紫穂 ベスト8

※東北選手権の出場権を獲得(中止)

〔全日本女子剣道大会右手県予選〕

高体連推薦選手として鎌田朱音、川村紫穂が

2回戦 川村 一ノ木 高橋(富士大)

鎌田 ヌメー 島崎(富士大)

〔第64回右手県高等学校新人大会剣道競技〕

個人戦

鎌田 愛 ベスト8

高橋恵那 ベスト32

2回戦 5(10)-0(1) 千厩

準々決勝 0(1)-3(6) 盛岡第一

※令和4年度高総体のシード権獲得

〔ハンドボール部(男子)〕

1回戦 28-14 水沢

2回戦 11-36 盛岡南

〔第14回右手県高等学校秋季大会〕

1回戦 40-22 水沢工業

2回戦 26-40 盛岡中央

〔第65回右手県高等学校ハンドボール新人大会〕

1回戦 16-42 盛岡南

〔ハンドボール部(女子)〕

1回戦 32-18 盛岡商業

2回戦 14-21 盛岡南

1回戦 41-10 水沢

2回戦 17-26 盛岡第三

〔第65回右手県高等学校ハンドボール新人大会〕

1回戦 49-8 北上翔南

2回戦 21-28 盛岡白百合学園

〔サッカー部〕

〔第73回右手県高等学校総合体育大会〕

1回戦 1-2 北上翔南

〔第100回全国高等学校サッカー選手権右手県大会〕

1回戦 3-2 宮古商工

2回戦 1-1 P.K (2-4) 黒沢尻北

〔第56回右手県高等学校サッカー新人大会〕

1回戦 7-0 金ヶ崎・水沢農業・釜石商工

2回戦 0-7 盛岡商業

〔弓道部(男子)〕

〔右手県高等学校総合体育大会〕

団体戦・個人戦 地区予選敗退

〔全国高等学校弓道選抜大会〕

団体戦 予選敗退

〔弓道部(女子)〕

〔右手県高等学校総合体育大会〕

団体戦 地区予選敗退

個人戦 地区予選通過 佐藤音衣 予選敗退

〔全国高等学校弓道選抜大会〕

団体戦・個人戦 予選敗退

〔水泳部(男子)〕

〔第73回右手県高等学校総合体育大会〕

〔第59回水泳競技新人大会〕

〔水泳部(女子)〕

〔第73回右手県高等学校総合体育大会〕

400m自由形 東北大会出場

800m自由形 東北大会出場

100m背泳ぎ 東北大会出場

100mバタフライ 東北大会出場

400m自由形 東北大会出場

卓球部(男子)

学校対抗 2回戦 3-0 種市

シングルス 3回戦 2-3 盛岡四

平野 楽 2回戦 3-0 久慈工

ダブルス平野楽・池田和哉ペア 3回戦 2-3 専大北上

卓球部(女子)

学校対抗 1回戦 3-0 一戸

シングルス 2回戦 2-3 大船渡

熊谷留奈 1回戦 1-3 水沢

体操部

団体 第2位(東北大会中止)

個人 第6位 佐藤百夏(インターハイ出場)

個人 佐藤百夏 予選敗退

個人 那須野愛梨

東北選抜

団体 第4位 佐藤百夏 第18位 那須野愛梨

個人 第14位 菅原悠未

個人 第24位 菅原悠未

文化部

文芸部

令和3年度岩手県高校生文芸コンクール

詩部門 優良賞 1年 齋藤未琴(文芸部)

俳句部門 優良賞 1年 菊池美来(国語科)

短歌部門 入選 1年 半澤楓子(国語科)

戯曲部門 入選 3年 阿部りみ(演劇部)

文芸誌部門 入選 文芸部部長 2年 及川雄太

令和3年度花巻市芸術祭

一般の部 短歌部門 地位 1年 齋藤未琴

随筆部門 入選 1年 齋藤未琴

2年 及川雄太

書道部

第19回岩手県高等学校書道作品コンクール

奨励賞 3年 小原歩果

第16回岩手日報高校書展

入選 2年 桐山くるみ

3年 高橋 碧

3年 小原 歩果

3年 佐々木まどか

第22回高校生国際美術展

佳作 2年 桐山くるみ

2年 柏崎紫月

3年 高橋 碧

3年 小原歩果

第44回岩手県高等学校総合文化祭書道部門

第1種漢字・仮名 奨励賞 2年 柏崎紫月

1年 小原穂佳

入選 2年 桐山くるみ

1年 藤原伽名

第1種漢字仮名交じり 優秀賞 2年 桐山くるみ

2年 柏崎紫月

1年 小原穂佳

入選 1年 藤原伽名

第2種漢字・仮名

入選 1年 藤原伽名

第2種漢字・仮名



秀作賞 3年 伊藤里奈(書道科)

齋藤陽菜(書道科)

入選 3年 松田恭吾(書道科)

伊藤柚羽(書道科)

小堀内瑠奈(書道科)

日本音楽部

第44回岩手県高等学校総合文化祭日本音楽部門

10/28 岩手県民会館 奨励賞

吹奏楽部

第51回定期演奏会

5/30 花巻市文化会館

第59回岩手県吹奏楽コンクール

高等学校小編成の部 金賞

8/2 北上市文化交流センター

家庭クラブ委員会

第43回岩手県高等学校家庭クラブ連盟中央支部大会

学校家庭クラブ活動の部 優秀賞

「知ろう！考えよう！見つめ直そう！」 私たちの制服

1年 佐々木唯奈 1年 横田愛結

ホームプロジェクトの部 優秀賞

「我が家の食品ロス調査」

1年 菅原輝空

美術部

第73回岩手県高等学校総合体育大会

最優秀賞 3年 遊田叶望

優秀賞 3年 古館 凜

優秀賞 2年 高橋瑚亜

第44回岩手県高等学校総合文化祭美術工芸展

絵画部門 特賞 3年 古館 凜

入選 2年 高橋瑚亜

3年 葛巻咲帆

1年 半澤楓子

1年 梅津 樹

1年 根子友花

デザイン部門 入選 3年 遊田叶望

第45回全国高等学校囲碁選手権大会

7/30-31 岩手県民会館中ホール

『太陽のない夜空(石田皓・原案)』花巻南高

演劇部とその顧問・作

優秀賞(高総文祭出場)

第20回岩手県高等学校文化連盟囲碁新人大会

10/20-22 岩手県民会館大ホール

『太陽のない夜空(石田皓・原案)』潤色/花巻

南高演劇部とその顧問・作 優秀賞(3席)

囲碁

第45回全国高等学校囲碁選手権大会

女子団体 2位

(小原杏菜・菊池愛理・伊藤心結)

団体B2 優勝(谷藤直希・鎌田柊羽)

第20回岩手県高等学校文化連盟囲碁新人大会

女子団体 2位

(佐々木陽菜乃・加藤唯・菊池優花)

将棋

第43回岩手県高等学校将棋大会

女子個人 3位 小原杏菜

(全国高総文祭出場)

女子団体 3位

(菊池愛理・小原杏菜・伊藤心結)

第45回全国高等学校文化祭将棋部門

女子個人 小原杏菜

予選リーグ 通過(3勝1敗)

決勝トーナメント 1回戦敗退



部活動報告

野球部

二年三組 菊池 琉聖

私たち硬式野球部は、秋の県大会でベスト4になることができました。

三年生が引退してすぐに自分たちの代となりました。不安が大きい中でも勝っていったたびに、成長しているという実感がありません。

試合では、序盤に点数を入れられ苦しむ試合となり、追いついて延長の末、サヨナラで勝つことができました。自分たちの持ち味である、粘り強い野球が見えた反面、チャンスでのあと一本のヒットや守備でのエラーなどといった課題も多く見つかりました。課題を秋の大会で見つけられたのはとても大きいことだと思います。

東北大会に出場できなかった悔しさをバネに、課題を克服できるように冬はチームみんなで練習に励んでいきます。自分たちはまだまだ弱いという自覚を持ち、目標である甲子園に行くように野球や学校生活もしっかりとして、みんなから応援されるチームを作っていきたいです。



バレーボール部

三年四組 小野寺 雅緒

石川県で行われたインターハイは、コロナの影響もあり、今までは違っていた霧囲気や応援、人数制限という

厳しいルールのもとでの開催でした。コロナ禍で練習時間や遠征の回数が減り、ゲーム練習が十分にできない苦しい状態でしたが、短い練習の中で一人一人ができることを行いました。高総体県予選からインターハイまでプレーでの細かい部分の修正や流れを作る方法を考え、試合を通して失点が多かったところの徹底練習をしました。さらに学年に関係なくコミュニケーションを取り合うようにし、練習から本番の霧囲気を想定して取り組むことができました。

試合はとても悔しい結果で終わってしまいました。序盤は先攻していて良い流れでしたが、終盤になるにつれて自分たちのミスが増え、思うようなプレーができず、連続失点が目立ってしまった試合でした。

私たちが目標に向かってバレーボールをできるように、環境を作ってください。保護者の方々にはとても感謝しています。保護者の方々の支えがあったからこそ、インターハイ出場を決め、全国の舞台を経験することができました。また会場には選手の人数も制限され、部員全員で体育館に入ることができず、裏でサポートに回ることができず、裏でサポートしたチームメイトのおかげで、自分たちは安心してベストな状態で試合に臨むことができました。

私はインターハイという目標に向け毎日練習に励む中で、保護者の方々のサポートや本気で競い合い高め合うチームメイトがいるからこそ、自分もチームもさらに強くなっていると感じました。次の大会に向けてインターハイの悔しさを

忘れず、たくさんの方々にも勇気や希望、感謝を伝えられるようなプレーをすることも、さらに全国でも通用するバレーボールを目指していきたいと思います。



体操部

二年一組 佐藤 百夏

私は今回、インターハイに出場して学んだことが二つあります。

一つ目は、マインドコントロールの大切さです。インターハイでは本番の会場と練習の会場が違っていたり、限られたわずかな時間でしか練習ができなかったりと、普段の大会と異なることがたくさんありました。そのため気持ち焦り、試合を楽しむことができませんでした。しかしこの経験が自分をさらに強くする出来事になったと思います。

二つ目は仲間の存在の大きいです。私は個人でインターハイへ出場したため、いつも団体として一緒に演技しているチームメイトがいまいませんでした。同じ岩手県の選手の子たちの応援も、もちろん力になりました。しかしいつも一緒に練習をし、高め合っているチームメイトの存在が私にとっては大きなものだったため、少し心細く感じました。いつもそばで支え合っている仲間がいてこそ、楽しんで演技ができるのだと実感しました。また、今回で仲間の存在の大きさに気がつきました。

今年のインターハイはコロナ禍という難しい状況下で、開催できるかどうか危うかったです。しかし、この中で全国大会という貴重な経験をできたことに感謝したいです。また、実際にその場に行かないと分からない独特の緊張感や練習の方式などを体験できたことは今後にも役に立つと思います。今回学んだことはここで終わりにせず、来年の大会に繋げたいです。



囲碁将棋部

三年一組 小原 杏菜

七月三十一日〜八月一日にかけて第四十五回全国高等学校総合文化祭が和歌山県で開催されました。私は高総体祭の将棋部門に出場してきました。昨年は全国各地でコロナが蔓延し大会自体が中止となつてしまい、練習してきたことを発揮する機会が失われ、とても悔しい思いでいっぱいでした。将棋の練習もやる気が出ず、目標を見いだせずにはいりましたが、同じ岩手県代表だった一つ上の先輩から応援メッセージをもらい、この大会が高校最後の試合だった先輩より自分はとても恵まれていてと自覚しました。その時から私は、今まで自分を支えてくれた人達に感謝し、先輩の分も良い成績を残せるように頑張ることを目標に、日々の練習を積み重ねてきました。結果としては三勝一敗で予選リーグ通過、決勝リーグで優勝者にあたり敗北、一回戦で決勝リーグ敗退となってしまいました。自分の中でこの結果は決して喜べるものではなく、試合が終わった後に「こうしていれば良かった...」と後悔もしました。けれどもこの後悔は一生忘れないと思うし、忘れなくていい気がします。

部活動は高校生活でとても大きな存在でした。この部活動を通して、培った観察力や集中力を今後の生活で活かしていきたいです。



1年スポーツ健康科学系
キャンプ実習



芸術鑑賞会



思春期講座



令和3年度
PTA中部地区母親委員会交流会
11月27日(土)於さくらホール
『ハーバリウムで花を楽しもう』



毎年恒例の「PTA登校時ひと声かけ運動」、今年は九月二十七日から五日間の日程で実施されました。昨年同様、引き続きコロナ禍においてPTA活動が思うようにできない中、この運動を実施できたことは本当に良かったと思っております。

挨拶をするのと返ってくるというのは気持ちのいいもので、花南生から明るい声を返されるとこちらも元気をもらいました。みんなこのキーホルダーつけている

時間を割いて参加して下さった会員の皆さまには心より御礼を申し上げます。今後も工夫を重ね、この運動がより良いものになっていくことをお祈りしております。

山田前PTA会長がコロナを考慮して考案してくださったもので、今年も大活躍。運動が回を重ねる毎に進化しているのを実感します。

PTA登校時
ひと声かけ運動
PTA副会長 高橋 綾

けど流行っているのかな？
などイマドキ
高校生の流行
チェックもひ
そかに楽しみ
ました。



PTA活動報告

報告

花巻南高校PTAが全国高等学校PTA連合会から表彰をいただきました。組織運営が円滑で、諸活動を活発に行っているPTAに贈られる賞です。日頃の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の拡大により、二年連続で学校行事が縮小開催となり、葛藤を抱えながらの活動となりました。八月には岩手県独自の緊急事態宣言が発出されたことにより、文化祭として10周年記念事業も開催が危ぶまれましたが、前向きな検討を重ねながら開催に至りました。現場で活動した生徒の皆さん、それを支えた先生方関係者の皆様方、本当に感謝申し上げます。こうした活動は保護者や地域に勇気を与えてくれたと思います。

私たちは今、世界全体の激変の真っただ中にいます。もう二度と前のスタイルに戻ることは無いでしょう。だからと言って焦るのではなくむしろ自らを癒し、美しいものに触れリラックスした状態で判断力を養うことが大切だと思います。「困難が人を育てる」困難から知恵が生まれ、共感が生まれ、変革を成し遂げるのだと思います。

PTA広報編集委員長

伊藤 ケイ子

